

京都精華大学活動報告 22

日時：平成28年12月12日(月) 10:00～15:00

天気：晴

気温：最高 10.0℃／最低 5.0℃

参加者：12名

内容：土づくり（肥料＋落葉）作業，つるし柿・おとぎの国屋上菜の花の観察，
テントの固定作業，ムカゴの収穫，ヨシのワークショップ準備，ヤマカガシの観察

・ゾウの糞の肥料と落ち葉を集めた土づくりで，腐熟が進むように混ぜ合わせる作業を行いました。ちなみに，外気温が7℃で，内部温は17℃でした。完成までにはまだまだ時間がかかるので，今後の変化も観察していきます。

・つるし柿は，順調に仕上がってきていました。少しアカゲザルにあげたところおいしそうに食べていました。



・園内環境整備として，夏の日除けや雨天時の休息場所として配置しているテント用の重石袋に砂を詰めて取り付けました。



・おとぎの国屋上の菜の花の観察

追肥をした東側としていない西側では，色づきや成長に差が出てきていました。

なお，追肥として使用した肥料の成分分析結果も出ました。植物園で熟成させていたこともあり C/N 比が低くなっています。これは，有機物の分解や肥料効果の発現が速くなっていることを示しています。

分析項目	ゾウの糞の肥料	ゾウの糞の肥料＋オットセイの糞＋バーク
全窒素 (%)	0.97	0.53
全りん (%)	1.19	0.77
カリウム (%)	2.14	0.17
水分 (%)	14.9	72.1
C/N 比	26	14

東側（追肥あり）



西側（追肥なし）



・ヤマノイモの撤収作業：ムカゴの収穫と試食

グリーンカーテンとして、トラの第3グラウンド（非公開）に植えていたヤマノイモ科の植物の撤収にあわせて、むかごを収穫するとともに、茹でムカゴにして試食しました。





ちなみに、日本のヤマノイモは「自然薯」や「山芋」と呼ばれるものですが、今回使用したヤマノイモは、葉やムカゴの大きさなどからインドや東南アジアを原産とするニガカシュウの品種である「カシューイモ」だと分かりました。

ニガカシュウは、その名の通り苦みがあり、図鑑によっては有毒とも記載されていますが、カシューイモは「宇宙イモ」や「エアーポテト」と呼ばれ、苦みが少なく食用に適しているのが特徴です。

・ヨシの整理とトラップワークショップの準備



	内径 (mm)	育房数 (個)
ジカバチモドキ ①	7	3
〃 ②	6	1 1
〃 ③	5	5
〃 ④	7	8
〃 ⑤	6	2
〃 ⑥	4	7
ハキリバチ s p	5	1 3

来年に向け，トラップ用にヨシの皮を剥いたり，節で切ったりと準備を進めました。

ご興味ある方は，ぜひ一緒にやりましょう！

また，今年トラップを使用したヨシの内径と育房数をまとめました。

・ヤマカガシの観察

たんぼで出会ったので，捕獲しました。これまでも何度か確認されていますが，園内に定着しているかどうかは分かりません。なぜなら，水辺に生息していることから，川に流されて来たり，青草や木の枝の餌と混じって入ってくることも考えられるからです。なお，ヤマカガシは毒ヘビでもあるので，注意が必要になります。



これまでの活動で，ワークショップとして活用できるワークショップの準備も進められています。これらをさらにブラッシュアップしていきたいと思えます。

生き物・学び・研究センター 和田